

発達段階

中学生の発達段階としては、下記の2段階に分かれる。

3. 抽象性の発達(1年生頃)
4. 社会性の発達(2～3年生頃)

性の課題

中学生時期に表出する性の課題の主なものを記す。

- 児童ポルノ被害
- 性虐待
- 性被害(インターネット関連含む)
- 性加害
- “性と心”への対応
- 性交等の性行為
- 思いがけない妊娠
- 性感染症

臨床の観点

個別指導・個別支援

中学生における性の課題をみると、性行為に関連する課題が目立つようになってくる。被害的な立場にもなるし、加害的な立場にもなる。また(小学生時期も同様なのだが)、異性間ではなく同性間の性課題も浮上してくる。ここ20年程度、青少年の性交経験率は大きく低下してきている。すなわち二極化している。それゆえに現在、中学生時期で性行為に関連する課題が存在するのは、“その時代の影響”というよりも、家庭をはじめとした“(成育)環境の影響”が大きいと考えてもよい。対象生徒の家庭背景や地域環境、例えば不安定な家族関係や経済的貧困等の福祉的視点を持った対応が必要である。

さらには、中学生時期の性行為はそれ自体で存在するというよりも、他の心身(精神)の健康課題と併存・関連している可能性がある。精神的支援も求められる。

人工妊娠中絶に至る場合には、そこでの臨床指導が将来に影響する可能性が高い。同じ轍を踏まないための柔軟な指導や具体的な方法のアドバイスが求められる。

集団指導・小集団指導

「知識モデル」からみると、中学生時期は、知識を運用するための能力の格差が開いてくる時期である。また、往々にして「知識モデル」があまり通用しない生徒が性の課題を有している傾向にある。それゆえに、知識を基盤とした論理的な話の進め方よりも、実際の事例をもとにした“本当の言葉”によるやりとりを進めた方がよい。そこでは、恐怖や不安を与える事例とともに、希望を与える事例も紹介しておきたい。意識や態度を変えることを目標としたい。

学校では何が教えられているか

学習指導要領(平成29年告示)における性教育に関係する記述<中学校 保健体育>(一部抜粋)で以下の通り取り扱われている。

[1年生の保健の授業]

- 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ・思春期には、内分泌の働きによって生殖にかかわる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。
 - ただし、妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする。また、身体の機能の成熟とともに、性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすることなどから、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。

[3年生の保健の授業]

- 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ・感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。
 - ただし、後天性免疫不全症候群(エイズ)及び性感染症についても取り扱う。

中学校の3年生で性感染症について集団で学習することになっている。指導要領の解説(文部科学省)において、「エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス(HIV)であり、その主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れる」とされている。

平成31年度版の教科書(学研)で取り上げられている主な感染症は、「性器クラミジア感染症」「りん菌感染症」「性器ヘルペスウイルス感染症」「尖圭コンジローマ」「梅毒」の5つであった。

【参考文献】

1. 松浦賢長(編著):ワークシートからはじめる特別支援教育のための性教育. ジアース教育新社(東京), 2018.
2. 荒堀憲二, 松浦賢長(編著):性教育学. 朝倉書店(東京), 2012.
3. 文部科学省:中学校学習指導要領(平成29年告示), 2017.